

ディスカッション

令和4年12月2日

国立大学図書館協会地区協会助成事業成果共有会

「地区協会助成事業のこれまでとこれから」

テーマ

これからの
地区協会助成事業の
在り方

モデレーター

国立大学図書館協会人材委員会

兵藤健志（九州大学）

上野友稔（電気通信大学）

登壇者

北海道地区

芝翔太郎（北海道大学）

東北地区

檜原啓一（東北大学）

関東甲信越地区

大園岳雄（千葉大学）

東京地区

大橋拓真（東京大学）

//

西村梨花（お茶の水女子大学）

東海北陸地区

小嶋悦子（名古屋大学）

近畿地区

佐藤知生（神戸大学）

中国四国地区

竹下啓行（岡山大学）

九州地区

浦さやか（長崎大学）

参加者の皆様

Slido

- Slidoで随時ご意見やご感想を投稿ください。
- 地区協会助成事業の今後のあり方について、登壇者と一緒に議論に参加しているようなコメントを頂戴できれば嬉しいです。
- いただいた投稿はディスカッションの終盤で言及させていただくと共に、今回のイベントの報告書に掲載させていただくことがありますので、ご了承ください。

ポイント

事前アンケートから見えてきた課題

- A. 研修への偏り
- B. 効果が未検証
- C. オンライン開催による変化
- D. 人的負担の大きさと偏り
- E. 地区を越えた共有の仕組みが不十分



内容面の課題

- A. 研修への偏り
- B. 効果が未検証

A. 研修への偏り

事前アンケートより抜粋

- これまでの地区助成事業が研修が多かったため、地区助成事業＝地区研修だと思っている方も多いと思う。本来の地区の活性化のための事業や全国に先駆けた事業などを提案する場としての観点を増加させたい。
- 職員の研鑽のための講演会やセミナーが多く実施されていますが、そのような職員を受益者とした内向的な企画ではなく、情報発信や新奇性のある図書館活動の推進といった前向きな事業にこそリソースを投下すべきと思います。

B. 効果が未検証

事前アンケートより抜粋

- 人材育成にどのように貢献したか、あるいは貢献できていなかったか、事業に関わったあとの追跡調査も必要ではないか。特に参加者の立場の場合、どうしても受動的な関りになるので、それでもなお具体的な業務で参考になかったか、重要な視点になると思います。
- 研修等で紹介された内容のレベルが高すぎる場合、「自分の館では無理」という感想を持ち、他人ごとになってしまう点。

ひとつめの ディスカッション

内容面に関する課題（波及効果に関することも含む）について、今後の在り方につながるような、ご議論をお願いします。

- お感じになったこと
- ご所属の地区の状況についての現状認識
- そのほかに内容面で課題と感じていること
- 解決につながりそうなこと
- 他地区に聞いてみたいこと
- 今後の方向性 など

ポイント

事前アンケートから見えてきた課題

- A. 研修への偏り
- B. 効果が未検証
- C. オンライン開催による変化
- D. 人的負担の大きさと偏り
- E. 地区を越えた共有の仕組みが不十分

形式 & 運用面の 課題

- C. オンライン開催による変化
- D. 人的負担の大きさと偏り
- E. 地区を越えた共有の仕組みが不十分

C. オンライン 開催による変 化

事前アンケートより抜粋

- オンラインセミナーが増えつつあり、地区という枠組みの恩恵を得にくくなっている。
- 人的ネットワークの形成について、オンラインツールの普及により対面での打合せが減ったため、メリットが薄れつつあるのではないか。

D. 人的負担の 大きさと偏り

事前アンケートより抜粋

- どの大学も人員削減で通常業務の遂行も厳しい中、さらに事業への参加となると負担が大きい。
- 意見を出すメンバー、議論するメンバーが限られて、全大学でチームを作っている意味が今ひとつないところか。

E. 地区を越えた共有の仕組みが不十分

事前アンケートより抜粋

- どんな地区助成事業が行われているか網羅性があまり高くないと思います。
- 成果公開の場の整備や、研修等の運営の事務的なノウハウの共有があれば地区助成事業を進めやすいと思う

ふたつめの ディスカッション

形式&運用面に関する課題について、今後の在り方につながるような、ご議論をお願いします。

- お感じになったこと
- ご所属の地区の状況についての現状認識
- そのほかに内容面で課題と感じていること
- 解決につながりそうなこと
- 他地区に聞いてみたいこと
- 今後の方向性
- その他、全体を通して国大図協に期待することなど